

平成29年11月定例市議会

行政報告要旨

総社市

本日、11月定例市議会を招集いたしましたところ、議員各位におかれましては、万障お繰り合わせ、御出席くださいまして誠にありがとうございます。また、11月17日に開催いたしました在京総社の会には、加藤議長を始め、6名の議員の皆様とあわせて、過去最大となる140名もの方々に御参加いただき、ふるさと総社の活躍ぶりを大いに語りあう、大変有意義な会となりました。改めて、御出席くださいました皆様に厚くお礼申し上げます。

今議会は、22名の議員各位と迎える、初めての定例議会でございます。特別な思いを持ち、気持ちを新たに、進化し続ける総社市のため、歩みを止めることなく頑張ってもらいますので、どうぞよろしく願いいたします。

(市政報告・トピックス)

総社市の人口は、11月29日時点で、6万8,576人と、過去最高を記録しました。また、総社流の施策などによる総社の魅力が、移住希望者のニーズと合致し、今年度新設した人口増推進室にいただいた移住に関する御相談は、157件に及び、実際に、12世帯44名の方が総社市に

居住されています。

引き続き、時代の流れに抗って、人口が増加するまちとして、チャレンジを続けていきます。そのうえで、障がい者や高齢者、さらには被災者など、社会的な弱者と呼ばれる方々を支える、総社流のセーフティネットを確実なものとし、クオリティをさらに高めていくことで、人口が減少した場合にも動じない施策を充実させてまいります。

そのための今後の大方針として、全市にまたがる課題解決のための、「全国屈指の福祉先駆都市の実現」と、「そうじゃグランドデザイン改革」に加え、今一度、原点に立ち返り、地域に密着した課題を解決するため、「全国屈指の地域力」を3本目の柱としたいと思えます。

1) 全国屈指の地域力

新たな柱と位置づけた「全国屈指の地域力」ですが、地域ごとに抱える課題や、地域の弱い部分に改めて目を向け、強い地域が育つための施策を投げかけ、「地域改革」を実行してまいります。市内に17ある小学校区ごとに、平成29年度、7,666万円余りを自由枠交付金として配分し、

地域ごとの独自性を生かした運営をお任せしております。

今年度は、自主防災組織の加算額を倍増し、3年ごとの自由枠交付金の見直しにより、弾力性を高め、常に、地域の実情に合った運営を支援することとしております。

さらに、平成30年度、地域ごとに御要望いただいている安全安心に関わる道路や防災など、地域の弱い箇所を集中的に補修、整備していく費用として、「地域力予算」を大胆に措置していこうと考えております。

また、災害発生時、市民の安全を最優先に考え、地域の災害に対する備えを、より確固たるものとするため、市民のための「総社市災害救助支援条例」、及び「総社市災害救助支援基金条例」の制定を本議会に上程しております。

これまで、「大規模災害被災地支援に関する条例」や、先の議会で御承認いただいた、「大規模災害被災者の受け入れに関する条例」により、いち早く被災地に駆けつけ、被災者を受け入れるための体制を整備し、人道的支援を行ってまいりました。

災害発生時に、総社市民を第一に支援することは当然のことであり、今回、地元総社市において、災害が発生した

場合を想定し、家屋をなくし、避難所生活を余儀なくされた方々に対して、機能的で即戦力となりうる支援を準備することといたします。具体的に申し上げますと、例えば、総社小学校区に約692万円など、小学校区ごとに、避難所において、すぐに、そして自由に使える経費として、3,797万円、また、食料や生活必需品の支給から、家賃補助や、住宅の応急修理費用など、いつだれが被災者となっても、全面的に支援する経費として、1億4,269万円、あわせて、1億8,066万円を、基金として積み立てようとするものでございます。有事の際に、市民が安心していただけるよう制度化しましたので、慎重な御審議のほど、よろしく願いいたします。

また、10月31日、総社西小学校で開催した第9回野口健環境学校や、11月18日に岡山県立大学で開催した防災訓練では、野口健さんとともに、熊本地震の際に大変有効であるとの評価をいただいたテント村を再現いたしました。議員各位を始め、多くの地域の方々に御参加いただき、地域の防災力強化を図った訓練を行ったところでございます。

地域の皆様とともに作りあげている小学校ライスカレーは、11月6日に発売された清音小学校カレーとあわせて、これまでに8小学校のカレーを発売し、11月28日現在、39,466 個を売り上げています。12月11日には、第9弾となる服部小学校カレー、年内には、昭和小、及び維新小カレーの発売を予定しております。久代・阿曾・三須・新本については、今年度中の発売に向け、地域の皆様と協議、試作を重ね、さらに、総社北小、総社中央小についても実現に向け、調整しているところでございます。地域が考え、地域で作る小学校ライスカレーは、地域の活性化や、地域愛につながり、強い「地域力」となっておりまいますので、引き続き、皆様とともに頑張りたいと思います。

また、教員OBの方々からは、「是非、地域のお役に立ちたい。」とのありがたいお申し出を受け、地域と家庭と学校をつなげる放課後を中心に、来年度以降、地域のできるるところから「寺子屋」を設けたいと考えております。地域の歴史や礼儀礼節など、教育大綱が目指す子どもを育てるべく、地域学を強化してまいります。

今後は「地域の力」が、地方が存続するための重要な鍵と

なりますので、皆様のお力をお借りしながら、地域ごとのレベルを上げ、総社流の「全国屈指の地域力」を、創りあげていきたいと思ひます。

2) 全国屈指の福祉先駆都市の実現に向けて

次に、全国屈指の福祉先駆都市の実現に向けた取組みでござひます。

（“歩得”健康商品券事業）

総社市の高齢化率は27.5%で、比較的若い自治体ですが、医療・介護・福祉・年金などの社会保障にかかる負担は、年々増加してひます。税金と社会保障をあわせた、市民の負担は、直近で43.9%と、2分の1に迫ってひます。総社市の予算に占める割合も、3分の1を超える中、増え続ける負担を抑え、介護となる手前で歯止めをかけ、健康寿命の延伸を図る事業に予算を投入することが、我々、基礎自治体に課せられた使命だと思ひます。

平成30年4月からスタートする「歩いて獲得！健康商品券」事業、略して「“歩得（あるとく）”健康商品券」は、1歩1歩、歩いた歩数、健康診断の受診、対象講座の受講

などがポイントとして加算され、貯まったポイントを市内の登録店で使える商品券に交換する事業でございます。また、歩くことが難しい方にも配慮するシステムとし、20歳以上の全ての市民を対象としております。来年1月から募集を開始し、1,000円の参加料を徴収することで、健康に対する意欲を高め、上限1万ポイントを目指して健康づくりに取組み、結果、1億円の医療費抑制につながる好循環を生み出したいと考えております。

(障がい者支援)

また、今年5月に「障がい者千人雇用」を達成した障がい者支援の取組みは、次なるステージへ挑戦してまいります。11月20日には、元厚生労働省事務次官の村木厚子様を名誉顧問とする「障がい者千五百人雇用委員会」が発足いたしました。11月1日現在、1,028人を数える障がい者の雇用人数ですが、今後は、数字だけではない、生活の質を高めるための取組みにシフトを変えたうえで、1,500人を目指してまいります。また先般、倉敷市や福山市で起きた福祉就労事業所の倒産による、障がい者の大量解雇問題は、

現在の福祉就労の賃金に対する、国の補助制度のあり方を考えるべき、新たな課題であるにとらえます。「障がい者千人雇用」を達成した市として、補助制度の見直しを含めて、障がい者のおかれている現状を、厚生労働省に強く訴えてまいりたいと思います。

今後、障がい者施策の基本方針である「障がい者大綱」として、「総社市は障がい者の一生に責任をもちます」という強い決意の下、最前線でトライしていく使命を果たしていきます。

以上、全国屈指の福祉先駆都市の実現に向けた取組みについて、特に2点をクローズアップして御報告しましたが、他の全ての分野でのボリュームも上げていき、たとえ、人口減少時代が到来しても、全ての方々が安心して地域の中で自分らしく暮らしていける総社市を目指して、不退転の決意で臨んでまいります。

3) そうじゃグランドデザイン改革

次に、人口増対策を考えるうえでも、最重点に実行していくべき施策である「そうじゃグランドデザイン改革」について御報告いたします。

まず、総社市の20年後、30年後を見据えた土地利用のあり方を考えていくうえで、重要な計画となる立地適正化計画の策定状況です。9月27日に、岡山県とともに、国土交通省と意見交換を行い、交通弱者のための「雪舟くん」や、まちづくりと連動した「健康インセンティブ事業」など、現在取り組んでいる総社流の施策に、深い共感をいただき、総社の進むべき方向性に、大きな自信をもちました。

引き続き、県立大学周辺の学園都市構想を視野に入れながら、岡山県と歩調をあわせ、議員や市民の皆様方と議論を深めてまいります。

また、吉備線のLRT化については、10月に再選を果たされた大森岡山市長にお会いし、JRと交渉するための両市の合意点を見出したいと考えております。そのうえで、今年度中に、議員の皆様や市民の方々に判断していただくための素案を、3者で作成してまいりたいと思います。

総社の縦軸を強化するための南北道の整備状況ですが、長年の懸案事項であった、西山地区から、県道総社足守線を結ぶ市道拡幅整備事業は、現地測量を終え、関係機関との協議を整えたうえで、今年度中に、地元の皆様に丁寧に御説明させていただく予定としております。

全国が抱える空き家問題ですが、8月に発足した「全国空き家対策協議会」の会長に就任しましたので、そのイニシアチブを生かし、総社市の空き家対策に、全力で取り組んでまいります。現在、空き家所有者の方から、「総社市空き家百選制度」への相談や登録は53件を数え、定住につながるようマッチングを進めているところでございます。また、空き家の撤去についても、前議会で御提案いただいた新築助成制度と連動させ、中心市街地の活性化を踏まえた制度設計とし、来年度からのスタートに向けて、準備を進めているところでございます。

4) 人材育成について

以上、これから総社市は「全国屈指の福祉先駆都市の実現」、
「そうじゃグランドデザイン改革」、そして「全国屈指の
地域力」、この3本の柱を最重要課題として取り組んでいき
ますが、これらを着実に実行していくうえで、肝要となる
人材の育成にも尽力してまいります。

以前から、内閣府や文部科学省、福島県相馬市、社会福祉
法人 旭川荘などへ職員を派遣し、その場の臨場感を肌で
感じ、得られた経験を総社に戻り実践し、本人だけでなく、
周りの職員にとっても、大きな刺激となっているところで
ございます。ここで新たに、10月に総務省、来年4月には
真庭市と人事交流を始めることといたしました。平成30年
度からは、さらなる人材育成体制の強化を含めて、「自ら
考え、自ら行動する職員」を目指して、誠実かつ情熱を
もって、職務にあたる職員を育成していきたいと考えており
ます。

5) ふるさと納税について

今年度におけるふるさと納税の現状ですが、昨日までの総納税額、8億1,034万円のうち、主力の返礼品である総社産の新米は、1万9,449俵分ものお申込があり、前年同月と比べ、2,153俵多くなっています。このふるさと納税で得られた財源を基に、総社流の施策を充実させ、進化し続ける総社市を後押ししていきたいと思えます。

(市民へのお知らせとお願い)

続きまして、市民の皆様へ4点、お知らせとお願いをさせていただきます。

(1)「2018そうじゃ吉備路マラソン」について

1点目、来年2月25日に開催する「2018そうじゃ吉備路マラソン」でございます。今大会は、記念すべき第10回を数え、タレントの間寛平さんをスペシャルゲストにお迎えいたします。また、吉備路マラソンを題材とした、「2018カレンダー」を作成し、1部500円で好評発売中です。この表紙を飾るおんぶ犬「太郎くん」を

今大会のマスコット犬「きびマラ犬」に任命し、寛平さんとともに、記念大会を大いに盛り上げていただきたいと思います。

11月29日現在、8,143名の申込をお受けし、前年同日比843名増と、好調な滑り出しでございます。募集人員も、2万5,000人と、今までにない迫力となること間違いありません。さらに、今大会では、新しくボランティアウェアを準備し、全国からのランナーを精一杯おもてなししたいと思います。

ランナーとして、あるいはボランティアとして、御参加いただき、共に楽しめる大会としてまいりますので、乞う御期待ください。

(2) チュッピー関連

次に、今年6月に発売したチュッピーウォーターは、11月29日現在、早くも4万0,096本を売上げ、増産を重ねているところでございます。

認知度の高まっているチュッピーは、「おかやまご当地キャラ総選挙」に出馬し、県内27のゆるキャラたちと、

熾烈な選挙戦を戦っている最中でございます。12月2日、イオンモール倉敷で開催される総選挙当日も、チュッピーが最後のお願いにあがりますので、ぜひともチュッピーに、清き1票をお願いいたします。

(3)「追悼 高木聖鶴展」開催中

3点目、今年2月に逝去されました、文化勲章受章者で総社市名誉市民でもあります、高木聖鶴先生の追悼展を開催中です。聖鶴先生は、書壇の最高峰であられながらも、生涯ふるさと総社を活動の拠点とし、地元総社の書道文化に貢献されました。追悼展では、病床で書かれた絶筆や、本市所蔵作品を中心に、生前の愛用品なども含む約40点を展示しております。12月10日まで、吉備路文化館で開催していますので、この機会にぜひ御来場ください。

そして今後、いただいた御寄附を、「高木聖鶴・聖雨基金」として積立て、子どもたちに、書を通じた心の教育を行うことで、聖鶴先生の御遺志を形に変えてまいりたいと思います。

(4)「SOJAイルミネーション2017」開催

4点目、「SOJAイルミネーション2017～キラメキの祭典inそうじゃ～」のご案内です。今年は12月4日から来年1月9日まで、総社駅前広場や市役所通りが華やかに光り輝きます。あわせて、年末恒例の「こたつ100個ライブ」を、12月16日土曜日に開催しますので、皆様お誘いあわせのうえお越しくくださいますよう、よろしく願いいたします。

(8月議会での検討事項について)

ここで、先の8月議会で検討事項としたものについて、その結果を御報告させていただきます。

まず高谷議員から、まちかど郷土館のエアコン設置について御質問がございましたが、設置場所などを検討し、平成30年度予算に計上する予定としております。

次に、根馬議員からの、山手セロリを地場産業として保護、復活してはどうかとの御質問について、平成30年度から山手セロリの産地復活支援策を実施すべく、現在

準備を進めているところでございます。

加藤議長からは、運送業者などのトラック車体に、市内の観光名所などをラッピングしてはどうかとの御質問をいただきました。早速、市内の事業所に協力を仰ぎ、実施に向けて協議を進めております。

最後に、三宅議員からの、2点の御質問でございます。

1点目、公用車へのドライブレコーダー設置について、市バスや、雪舟くんにはすでに設置していますので、今後は、市民の方が利用される公用車に、設置を進めてまいります。

2点目、地食ベオンラインショップの商品ラインナップの増加や企画品の設定についてですが、早速、ラインナップを増やし、カード決済や、複数の配送先の指定も可能といたしました。今後企画品についても調整し、総社の魅力あふれるショップ作りを心がけていきたいと思っております。

以上、我々が、総社市のために果たすべき課題は、数多くありますが、加えて、国の動向もすばやくキャッチしなければなりません。

先般開催された全国市長会において、現在、地方消費税に占める人口割が17.5%しかなく、都会に有利な税収となっていますので、この割合を増やし、地方に税収が増えるよう提言してまいりました。また、全国市長会の経済委員会において、森林環境税の導入について、委員長として議論をリードしてきたところです。いずれにしても、今後、国の税制調査会で議論が進むこととなりますが、引き続き、総社市にとって有利となるよう、議員の皆様とも緊密に連携を取りながら、積極的に働きかけていきたいと思っております。

総社市が進化し続けるために、地域、地域がもつ多くのポテンシャルを生かした施策を行うタイミングを見極め、慎重でありながらも使うべきところには使い、議員の皆様方とも十分に議論しながら、総社の未来へ投資する挑戦を続けてまいります。

今後とも、議員の皆様方におかれましては、より一層の御理解と御協力をお願い申し上げ、私からの行政報告とさせていただきます。